

「セミの抜け殻調査」の調査結果

場所;和歌山城 二の丸広場虎伏像前

	クマゼミ	アブラゼミ	ニイニイゼミ	ツクツクボウシ	ミンミンゼミ	合計	参加者数	自然度
2005.8.6	98	287	4	3	0	392	21	3
2006.8.5	196	283	2	2	0	483	26	3
2007.8.12	97	405	0	0	0	502	33	2
2008.8.10	145	513	2	2	0	662	32	3
2009.8.9	38	141	0	0	0	179	24	2
2010.8.8	168	532	3	1	0	704	45	3
2011.8.13	144	513	2	0	0	659	51	3
2012.8.12	169	343	1	0	0	513	58	3
2013.8.11	115	238	2	0	0	355	35	3
中止	-	-	-	-	-	-	-	
2015.8.9	65	196	2	0	0	263	28	3
2016.8.7	241	436	5	0	0	682	33	3
2017.8.6	350	178	2	2	0	532	34	2
2018.8.4	415	387	1	2	0	805	43	2
2019.8.4	492	313	4	2	0	811	43	2
2020.8.2	260	74	2	0	0	336	27	1+

考察

クマゼミの優先率が高いが、ニイニイゼミが2個発見されているので、自然度が1+である。ニイニイゼミの抜け殻は、公園内の一部分で林になっている所で発見しているため、この部分のみ比較的湿度が高いということが考えられる。

2017年からアブラゼミよりクマゼミの生息数が多くなっている。この期間二の丸広場や和歌山城の森の樹木構成に変化はないので、周りの都市乾燥化や都市温暖化、地球温暖化により、二の丸広場の乾燥化、温暖化が進んでいるのではないかと考えられる。

<自然度について>

調査区域の自然度は次のように判定します。

※セミの「ぬけがら」があるのはセミが生息していると判断します。

自然度00：木がない。

自然度0：セミはいるがセミの「ぬけがら」がない。木がある。

自然度1：クマゼミが優先（もっとも生息数が多い）し、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミが生息しない。木がある。

自然度1+：クマゼミが優先し、ニイニイゼミまたはツクツクボウシなどクマゼミ、アブラゼミ以外の「ぬけがら」の合計が2個以下ある。木がある。

自然度2：アブラゼミが優先し、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミが生息しない。またはクマゼミが優先し、ニイニイゼミまたはツクツクボウシなどクマゼミ、アブラゼミ以外の「ぬけがら」の合計が3個以上ある。木がある。

自然度3：アブラゼミが優先し、ニイニイゼミ、ツクツクボウシのいずれかが少し生息する。木が多い。

自然度4：ニイニイゼミ、ツクツクボウシが多く生息する（ぬけがら10個程度）。またはミンミンゼミが少し生息する。木が多い。

自然度5：森でミンミンゼミまたはヒグラシが多く生息する。あるいは、ミンミンゼミとヒグラシのぬけがらの採集が困難なため、森でミンミンゼミあるいはヒグラシの成体がいる、でもよい。

参照 和歌山県生物同好会

ホームページ：<http://kisyuuseibutu.pya.jp/>